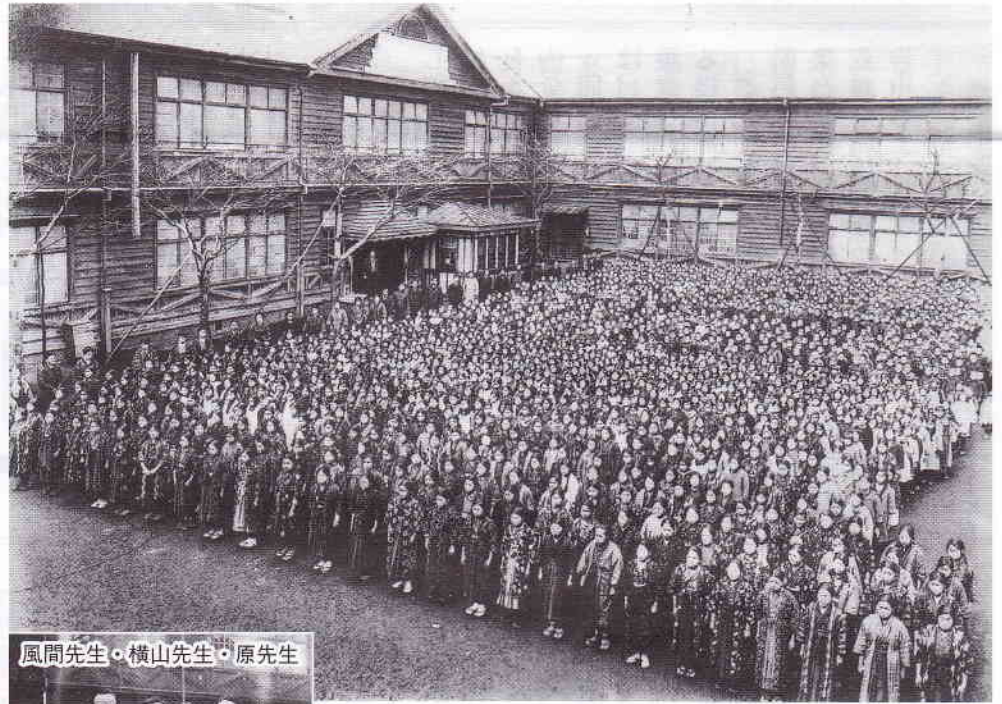


大井第一小学校



同窓会会報10号

大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2008年4月



大正15年3月

昭和12年2月11日紀元節
テニス大好き

昭和17年卒業アルバム
葛生校長先生書



大井第一小学校に着任して

校長 青木 哲男

平成十九年の四月に、府中市立白糸台小学校から転勤し、本校の第二十七代校長として着任いたしました。開校百三十二年を迎える歴史と伝統のある本校に着任することができたことを大変光栄に思っております。しかも品川区内の小学校では最大規模を誇る学校であり、幅広い地域の信頼や期待を集めている学校でもあります。それだけに使命感や着任感をひしひしと感ずる身の引き締まる思いで仕事を進めております。

実は、私は本校にご縁があります。というのは、かつて品川区教育委員会に指導主事や指導課長として長く勤務しておりましたので、何度も本校におじゃましました。栗田、兒玉、櫻橋校長先生の時代でした。こうした経緯もあり、ある意味ではなつかしい学校に舞い戻ったと言っても過言ではありません。うれしいご縁であります。

さて、明治、大正、昭和、平成と日本の近現代教育史をほぼそのまま生き抜いてきている本校は、一万八千人の有為な人材を輩出してきています。そしてその卒業生の皆さんが組織されている同窓会がしっかりとされています。ことに敬服しております。四代・五代と本校を卒業されているご家族もあります。親子で語り継がれる学校は素晴らしいものです。

本校では、卒業生の皆さんがよく学校を訪問されます。卒業したばかりの

○ ホームカミングデー開催

懐かしい「大井第一小学校」に集まろう
鹿嶋神社祭礼の日
十月十九日(日) 十一時〜十五時

○ 集団疎開地を再訪しよう

日野、八王子、七生村(寺、学寮等)
五月三十一日(土) 十時 大井町駅中央口集合



詳細は7ページ

中学生から、戦前、戦中に本校で過ごした方に至るまで、なつかしうに校内をご覧いただきありがとうございます。卒業した学校を「母校」と呼びますが、まさに本校は母なる学校、おほかでたくましく、そして優しさに溢れた「母校」なのでしよう。子どもの時に見た原風景はいつまでも脳裏から離れないものです。「母校」大井第一小学校はいつまでも皆さんの心のふるさとでありたいと願っています。どうぞご来校ください。お待ちしております。

「学校長より」

◎品川区の中小一貫教育と本校の今後
品川区では子どもたちのより良い教育内容を充実させるためにすべての公立小・中学校で一貫教育を実施しています。施設一体型としては現在、日野学園と伊藤学園が開校しております。区としては、あと四校の施設一体型一貫学校を準備しております。本校はその中に入っていないので、今後、伊藤学園と施設分離型の一貫教育を推進していきます。

◎卒業生の学校訪問時における

入門の仕方

卒業生の皆さんがせっかく訪問されても校門がブロックされているときがあるかと思えます。これは子どもたちの安全を守るための措置でありますので、お許しください。インターホンがありますので、そこで用件を話してください。用件に応じ、すぐに解錠いたしますのでよろしく願います。

品川区功労者

表彰受賞のご報告

平成19年10月

1日「品川区功労者表彰式」が行われました。

「表彰区分」德行に関するもの

「文面」貴会は

校内の安全対策の充実の為

防犯カメラ一式を寄付され

本区の教育行政に貢献されました。

その功績はまことに顕著であります。よってここに区民を代表し記念品を贈り表彰します。



品川区長 濱野 健

母校の創立130周年記念事業の一環として校内に設置した「防犯カメラ」は校内外で高く評価され、これが起爆剤となり都の教育委員会の補助を受け区内全校に防犯カメラが設置されました。同窓会会員の浄財で設置した本校には、その代償として全教室に電話器が設置され、外部からの通話も受けられる様になりました。これにより校内の業務だけでなく、緊急時の対応も速やかに処理出来る態勢となり、児童の安全面でも極めて有意義な環境となったことを併せてご報告申し上げます。

同窓会会長 津田 照通

思い出 いっぱい

旧職員 S 20〜21

昭和15年卒 佐藤二美子

(旧姓・竹内)

会報九号の表紙を飾った数々の懐かしい写真。その中で、葛生校長先生の前に座っている自分に出会ったのには驚きでした。私の中で思い出の頁が開いたのです。

日野の鮫陵源に集団疎開されていた、二年生の皆さん。お元気ですか。もう、お孫さんをお持ちの方もおられる事でしょう。私は、勤労働員に明け暮れた女学校を、卒業と同時に臨時教員試験を受け、合格したというだけで、名ばかりの助教となり、すぐ母校に配属されました。懐かしい母校に喜んだのも束の間、五月には鮫陵源に向向き、記憶も遙かですが、二年生を七人お預かりしたのです。あなた達は、本当に偉かった。まだ小さいのに、親元を離れたの集団生活。どんなに淋しかった事でしょう。でも、自分の立場をちゃんと理解して、みんな仲良く頑張りましたね。鮫陵源は、大きな料亭だったそうで、粋な造りで、庭も広かった。大きな白い百日紅を覚えていますか？広間では、上級生と少し離れて勉強しましたね。頼りない先生でしたが、私の腰の回りには、いつも何人かの子達がくっついていましたので、亡き梶原先生に「まるでちいさこべのすがるだね」と笑われたりしたものです。「お母さま、松葉牡丹が咲きました。お好きな花を見ていると、あなたの事を思い出

校長先生を偲びて

昭和5年卒 岡田 一郎

今回は校長先生についての話を書いて見る。

昔なら不謹慎だと言われることだが、今は亡き校長先生の印象や思い出を書けば、在学年次に居られた先生の姿を頭に浮かべて下さる方も居られると思う。

私が一年生に入った時は第11代永島松治郎先生、金縁の眼鏡に口髭を蓄えられ、大柄な体躯、めったに校長室から出られなかった。

その頃は朝礼もあったのか、低学年は小運動場に整列したので記憶にない。祝祭日にはフロックコートを着られ、白手袋をして居られたのが目に残る。

松、竹、梅、雪と組名にしたのは一年生の時だ。

第12代櫻井孝之助先生は、地元大井

櫻井家の系列の方で、やや痩せ型で、チヨボ髭をつけておられた。

大井第一、地元校長にて来られたので誇りとされて居られる感じが印象的だ。

第13代河原耕蔵先生、出身は馬込の万福寺近くの河原家の一族で立会校の初代校長から転任され、明るい人柄で声の高い方だった。

戦後もお宅に伺った時、見せていただいた大黒柱が忘れられない。

第14代葛生庄一郎先生、この先生は一番長く在職され、御苦労もあり戦災学校復興に多大な功績を残された。

樹木がお好きで、父兄の家を廻りシユロ、藤棚等を作り、後援会（今のPTA）を動かして校庭を拡張された（現在の広さ）。

戦災で焼失した校舎復興、校歌、校旗の製作に貢献された。

これには教頭の梶原先生とのコンビ、この復活の力が大きかった。

第15代仲山利一先生は、西大井二丁目に居を構え、原小と大井第一の二校で教師生活を終えられ、後に区教育委員もされた。

第16代小島要先生、台場小初代校長を務められ、本校に来られた。体格の良い方で笑い顔はエビス様の様でした。社会教育に熱心で青少年委員を御一緒に務めた。

第17代赤池徳平先生は鈴小より転任され、赤ら顔の厳格そうな顔付きだが、お話は短いので有名だった。

昨年亡くなられたが「通夜の席に教育関係者だけには酒を出すな」との御遺言をされたそうで、御性格が伺われる。

第18代海老根英夫先生は、退職後八王子方面に居られ、一度も学校においてならなかった。

第19代武井春夫先生は、教員時代も本校に在職、多くの卒業生を出され、山中小より転任、本校百周年記念行事に御尽力下さった。

御次男は現港区の区長さんだと付記する。

以上、11代から19代までの校長先生を列伝した。大井第一の良き伝統を教育して下さったことを感謝し御冥福を祈る。

大井第一小学校の思い出

昭和6年卒 佐藤 通子

学校の前に「丸田や」があった。鹿嶋神社に爆弾が落ちて、社の一部が破壊された。

鹿嶋神社の前に交番があった。そこに「コカンジャ」という犬がいて、私の庭へよく遊びに来ていた。通学途中に、三又の辺りで「コカンジャ」に会うと、喜んで、飛び上がって顔を舐めようとした。

私の家の隣にはお化け屋敷があった。大きな椎の木があった。その椎の木に登ると東京湾が見えて、白帆の舟が引き来っていた。

戦争中に、小学校の体育館の後ろの道路上で、人魂を見た。

担任の井上先生は教育熱心で、受験生のため夕方補習をしてくれた。電気を点けると叱られるからと、暗い中、黒板の字が次第に大きくなり、字が見

えなくなるまで教えて下さった。思い出は沢山、この小紙では書き切れません。



大井のむかしばなし



昭和13年卒 岩城 英敏

私が西光寺の前住職から昭和二十年代に聞いたお話です。彼が子どものころ（明治20年頃）古老から聞いた話によると、古老が農作業をしていると、風向き（南風）によって、鈴ヶ森刑場で磔になる死刑囚の断末魔の音が、倉田町のあたりまで聞こえてきたそうです。磔は明治になって間もなく廃止になりましたので、この話は江戸時代のことだと思われまます。

昭和28年8月頃のことだと思えます。当時、第一京浜国道の拡幅工事が行なわれており、私は鈴が森の大経寺のあたりを自転車で通りました。ふと道路脇を見ると、土木作業員が掘っている溝の中から人骨が続々と出てきました。江戸時代、大経寺のあたりは刑場だったのです。鈴が森の刑場は、現在の国道はもとより、その西側にまで拡がっていました。無数の人骨は、当時処刑された人のものだと思います。恐らく処刑人が処理に困って、刑場の片隅に

埋葬したのではないのでしょうか。なお、この様子は当時のアサヒグラフにも載りました。

私の祖母が当寺に嫁に来て間もなく（明治25年頃）、夕方になると光福寺の裏山でキツネが鳴いていたそうです。また現在、品川大井七郵便局の斜め向かいのマンションが建っているところは、当時は雑木林で、しばしば追いはぎが出たそうです。

郵便局の右隣は糶屋の岡田さんの家屋敷です。昭和一ケタの頃、鹿島神社に大井用水の記念碑を建立することになりましたが、その基礎工事をしていた時、突然大きな横穴に当たりました。私は偶然その場に居合わせたのですが、大人の人々が「糶屋の室に当たった。」と話していたのを憶えています。糶屋の糶室は、自分の家屋敷の地下だけでなく、池上通りを越えて鹿島神社の境内まで、縦横無尽に広がっていたようです。

①糶屋：米、大豆、麦などを煮し、室の中にねかせてコウジカビを繁殖させ、酒、醤油などの醸造を行っていた家。

担任の先生方

昭和18年卒 菅野 義信

入学1年生の担任は浅沼先生で、前年は兄の男女合同月組6年生の担任でしたが、生徒全員を公平に扱い、直ぐ転任されてしまいました。

2年生時は石川 等先生で、少しご老体の感じで、多少エコヒイキがあったように思いました。定年で、お辞めになったように思います。3年生時は

副校長の新堀先生でしたが、ご病氣勝ちでお休みが多く、途中から寄藤先生に変わりました。それあってか、理科、国史等の科目が増えた4年生からは卒業までの3年間、風間方美先生に音楽の昼間先生、図画工作の中村先生を除いて、3年間お世話になり、担任としては、大部分が風間先生の思い出です。

正月には組全員を自宅に呼ばれ、夫々が隠し芸を披露し、今はもう無くなった「講談」や「浪花節」を意外な生徒が演じ、拍手喝采の一時を過ごし、全員写真が今も手許に残っています。

5年生の12月、日米戦争が始まり、国中の興奮と物資不足、正月の集まりは1回のみで中止になりました。6年時に、前年は中止であった修学旅行がこの年のみ再開され、暖房の為の新聞紙を沢山用意し、大森駅からの夜行列車で、名古屋付近で明るくなり、名古屋城が遥かに霧の影に見えたのは感激でした。後に知ったことですが、風間先生は腹痛にも関わらず参加され、帰郷後、直ぐに盲腸の切除をされ、病院には放課後多数の生徒がお見舞いに押し寄せたのは当然です。奈良の猿沢の池の畔の旅館では、一晚中枕投げで遊び、翌日の京都見学では、生徒同士手をつなぎ、殆んど居眠り状態で街中や清水寺を歩いているような状況でした。進学指導も適切で、後の同級会他、お目にかかる機会もあり、小生のアメリカ留学時には羽田空港での歓送も受けました。

ご高齢期の風間先生はご夫婦で、ご自宅近くの慶友病院（今の老健のよう

な病院）に入院され、上京時には1回お尋ねし、細い紙筒を漬して漆で固め、組み合わせた自作の筆立ては今も使用しています。奥様を先に亡くされ、一周忌をすませ、後を追われたのは1997年1月で、小生が広島大学定年後、2年長い上越教育大学も定年になり、広島へ帰つての翌年でした。御最後に近いお葉書も残してあります。

大井第一小学校：ある時代

その二

昭和22年卒 山上 伸也

「空襲」

三年生になってすぐだったと思う。アメリカ軍の空襲があった。ほんの短時間であったが大騒ぎであった。まだ勝ちムードが支配していた頃なのでまったく予想すら出来ない出来事だった。私の家から直線距離で200メートル程しか離れていない東芝の工場に爆弾が落ちた。ここちて近所の仲間と見に行った。工場の庭には、直径20メートルぐらいの逆円錐形の穴が綺麗に空いていた。損害はそれだけ。しかし、低空で飛んでゆく敵爆撃機に対し、勇猛果敢なわが軍の戦闘機も高射砲も、何の反撃もしなかった。

後日談だが、ドウリットル率いる艦載爆撃機は、日本近海の太平洋上の空母から飛び出し、東京を爆撃し、日本海に抜け中国奥地に無事帰還したそうだ。

後に疎開先の畑に落ちた爆弾跡も同じ綺麗な円錐形であった。何週間かす

ぎて、その中に雨水が溜まり池になり、イモリがたくさん泳ぐようになった。私はイモリなど見たことは無かったので、てっきり食用蛙のおたまじゃくしと思ひ、喜んで捕えたがひっくり返ったお腹を見てビックリ、赤黒い気味の悪いいきものだった。

「集団疎開へ行く日」

大井町中サクバクたる中を私たちは集団疎開へ行く事になった。三年の夏休みが終わるころだった。三年生と四年生は日野へ、六年生は八王子へ。

出発の朝、新しい世界に遠足に行くように私は張り切つて、お豆腐屋の四つ角に集まつて行つた。大勢の家族たちの中に混じり、私は祖母、弟をおぶつた母が見送りに来ていた。母は人目を憚らず泣いていた。そんな母の泣くのは見たことが無かった。でも母の心を察しられなかった元氣いっぱいのは、とても恥ずかしいと思つた。今考えると愛する家族と今生の別れになるかもしれない重大な局面だったのだが。

大井町の駅のホームで電車を待っていた時、先生に肩をたたかれ言われた。「お父さんが見えているよ。」父は階段を上がつたところに立っていた。いつも厳しく、あまり気安い会話を交わしたことの無い父で、私が話すときは必ず敬語を使っていた。何を話したのか覚えていない。

その父の姿と、泣いていた母の涙は今も胸の奥に残っている。

札場

昭和28年卒 下田 孝

現在の「大井第一小学校前」のバス停は、我々が小学生だった昭和二〇年代は「札場」という名称だった。第一小の四つ角が江戸時代には高札場だったことによると、授業で教わった。また第一小はいま「大井六丁目」だが、当時は「大井鹿島町」で、その他「庚塚・滝王子・山中・倉田・鎧・出石・原・森前・森下町」等々とあり、「大井」を含めてそれぞれの町名の由来を、4年生の時だつたと思うが、いわば最初の社会科として教わつた。このような地元の歴史のようなことは、いまの第一小でも教えられていないのであろうか。

※現在は教えていないそうです。

運動会の歌

昭和44年卒 國本美都子 (旧姓・宮本)

運動会の歌

- 作詞・作曲 宮本美都子
- 一 鹿島の森に こだます われら大井第一の 元氣あふれる 応援に それゆけ それとべ それ走れ
- 二 高い空ゆく ジェット機の 強い爆音 消し飛ばせ われらこの声 どこまでも それゆけ それ飛べ それ走れ



昭和四十三年の運動会のために、応援歌の募集がありました。その目的などは、今もわかりませんが、たしか、

北川先生からも「作ってみたらどう？」というお声をかけていただいたと記憶しております。当時私は六年生でしたので、小学校の思い出として、大井第一小学校への想いを込めて曲作りを決意したと思っています。

運動会の鼓笛隊パレードでは、私はバトンを担当しており、曲想はやはり行進曲風四拍子、応援歌に合わせて二拍子にもなった方が良いのかな？などとイメージし、一年生にもすぐ歌えるようにと、歌詞を何度も書き直したのも覚えております。

幸運にも、自分の曲が選ばれて、びっくりしたことだけが記憶にあり、その他のことは詳しく思い出せません。そして、この曲は昭和四十三年の運動会でデビューしました。

私は多分、五つのコードくらいで作曲したと思いますが、音楽の岩野先生や北川先生の編曲でメロディが見違えるようにいきいきとし鼓笛隊の演奏では、体中がワクワクしてくるようでした。感激でした。

でも、それは、自分の作曲した曲が選ばれ演奏されたことに感激したというより、あの私の小さな部屋のピアノの前で作った旋律が大きく成長したことへの感激でした。

その時から、この「運動会の歌」は、もはや自分のものという感覚はなくなりました。それは今も同様です。

このようにして生まれた歌が、今日に至るまで大切に歌い続けていただきたことは大変嬉しく幸せに思っております。

十二才の私の小さな存在が、四十年という歴史の中にあり続けることのできたのも、第一小学校みなさまのお陰であると、感謝の気持ちでいっぱいです。

同期会クラス会だより

昭和21年卒・同期会



昭和21年卒 白旗 洋子
(旧姓・池田)

私達昭和21年卒業の同期会を5月31日横浜中華街の白楽天で催しました。

私達の同期会は大井第一に何年かでも在籍していれば、卒業時にいなくてもよいという会です。

今回は男性8名、女性8名の16名参加でした。

私達は昭和20年8月終戦の時、6年生でした。

昭和15年入学時は、松・竹・梅・雪の4組でした。空襲をさけるため昭和19年8月18日の集団疎開や、縁故疎開のためばらばらになり、昭和20年10月19日旧七生村の平山学寮から一年二月振りに戻ってきた時は学校の校舎も焼け、浜川小学校の間借り教室に男女一組の一組でしたが、毎日のようにばらばらと大井へ戻ってきた人達が入り、

21年3月の卒業時には男・女共一組ずつになっていました。

卒業写真は焼跡のヒマラヤ杉の下で撮りました。先生方、女子組、男子組の三枚で卒業名簿ありませんでした。

昨年5月31日、同期会で大田区の小学校を卒業した男性が、都立八中(現

小山台高校)に入学した際に大井第一の生徒が何人も入学していて、第一小はやっぱいい学校だと言う話も出ました。



毎日新聞 (昭和20年8月16日)

又、私の一番の思い出は、終戦の昭和20年8月15日、疎開先平山学寮(旧安田家別邸)の道場に集り、昭和天皇の玉音放送を聞いた事です。それが当時の毎日新聞(8/16日)に掲載され、昨秋62年振りに昭和24年卒の松林さんのご努力によりそのコピーを頂き感無量でした。

楽しき哉 古希の会

昭和25年卒 津川 幸子
(旧姓・鈴木)

「えっ！ ことし古希？ 私が？ ドキッ！」。そんな思いで迎えた70歳。

昭和25年卒竹組を中心に、松組、梅組の参加希望者を交えた「古希の会」が、平成19年11月16日、恩師松崎清子先生を大森東急インにお迎えして開かれました(参加者 総勢23名)。松崎先生は、いつも元気で若々しく、私達みんなでお慕いしている方です。

先生からお祝いの言葉と、めいめい

に「紅白饅頭」をいただき、会が始まりました。幼い頃の面影を残す人、道ですれ違ったらわからないほどの人、さまざまです。でも、一堂に会すれば、ヒマラヤ杉の聳える校庭で、縄跳びや馬跳びをしたクラスメートのままになつてしまふのは何故でしょうか。

司会者から順に指名されてのスピーチ。子供の頃、人前では話しながらなかつた恥ずかしがり屋さんが、話し上手になつていてびっくりする。ボランティアを30年も続けていて表彰された人、遠方から駆けつけた人、趣味が高じて商品にまでした人。小児リウマチの専門家として日本の頂点に立つFさんは、本校の後輩を見守る校医、演劇に携わる人、老いに向かつている私達に医師の立場で助言してくれたNさん。

どの方のスピーチにも温もりがあつて、共感する事が多いのは、同じ時を過ごしてきた者同士だからでしょう。

ご自身の怪我や病氣、ご家族の介護で欠席された方々もありました。私達はそういう年齢なのかも知れません。ご快癒を祈り、次の機会には是非お顔を見せて欲しいと思う。

「大井第一小学校校歌」見上げてごらん夜の星を」など歌つて大いに盛りあげた後、散会しました。場所をかえての二次会は、一層賑やかでした。初恋の人とのツーショットで、周りから囁かれ、頬を染めていた御仁もありました。まずは、楽しくめでたき

「古希の会」でした。

還暦記念クラス会

昭和35年卒 萩原 滋

昭和三十五年竹組卒のクラス会（竹の子会）は、数年に一度のペースで定期的に行われている。今年も、還暦記念ということで北海道や静岡からの参加者も含めて一七名の幼馴染が秋晴れの日曜に白金のホテルに集結、恩師の松崎濤子先生と共に旧交を温め、思い出を新たにしたり。五反田での二次会にも全員が参加、人生の節目を迎えるの悩みや希望を語り合った。私たち団塊の世代は『親の介護をする最後の世代にして、自分が介護されない最初の世代』と言われていた。実際に親の介護は身近な問題となっており、子ども代わりのペットに愛情を注いでいる者も少なくなかった。いざれにしろ時間と気持ちの余裕ができてクラス会の頻度がこれから増えそうな予感がした一日であった。

―女性参加者よりのコメント―

私たちのクラスは小学校以来ずっと絶えることのない、自他共に認める『女性上位の仲よし竹組』でした。それが今回のクラス会では、初めて参加者数で男性が女性を上回り、おのずと男性たちの話も多くなりました。お互いをあの頃の愛称で呼び合う談笑の中で、男性が如何に、親を、家族を、そしてペットを慈しんでいるかが、語られる言葉の端々にうかがわれて、それは耳を傾ける者にとっても心地良いものでした。今まで、先生や友人の間で話さ

れてきた「うちのクラスの男の子は力量もあるのに、いつも私たちの自由にさせてくれているのよネ。本当に優しいわね。」との思いが、再認識されたひとときでもありました。

ここで改めて申し上げます。「うちのクラスの男の子、今まで私たちが大きく包んでくれて有難う。優しく頼り甲斐があつて温かくて…とても好きよ。これからも、辛い時も楽しい時も飾ることなく素直に話せるような、そんな仲間であってね。」

これからのクラス会がますます楽しみに待たれる、還暦の秋の集いでした。

「小学生の競争体験を語る」の会

昭和21年卒 白旗 洋子 (旧姓・池田)

第一回会合 平成19年10月6日(土) 午後二時〜 於 第一小・多目的室
出席者 津田照通同窓会会長 松崎濤子・森 秀雄副会長。(21年卒) 白旗洋子・橋本孝子・馬場三枝子・森本力也・富田昌明・田中茂雄(23年卒) 馬場 宏(24年卒) 渡辺 功(25年卒) 加藤一博・椿 久雄・吉村陽子
森副会長からこの会合を開催した経過説明があり、会長の挨拶に続き自己紹介となり、学童疎開にまつわる各自の体験が語られました。途中出席された青木校長の挨拶、伊佐副校長の紹介を交え、渡辺氏からは同期(24年卒)の有志で作った「ヒマラヤ杉」と題する回顧録が紹介されました。

疎開先 「南多摩郡日野町」宝泉寺・大昌寺・欣浄寺「八王子」宇津木寮「七生村」平山学寮・豊田学寮 等。今となっては懐かしい昔話ですが、この苦しかった学童疎開の経験を風化させない為、この事実を如何に残すか等について話し合いました。

先生方の近況報告

石渡 欣久 88才になりました。元気で過しております。

守田瑠璃子 S37年卒の同窓会で、毎年新しい品川を巡る催しなどを企画してくれて、楽しいひとときをすごせることを幸せに思っています。

山崎 正子 家事、ピアノを弾いて、水墨画を描いて楽しむ。友人たちとの交流で元気に過ごしています。

宮田 孝夫 75歳になります。遠出が出来なくなりましたので、大井町には20年以上行っておりません。

岡田 明子 新卒で初めて担任した(2、3年生)岩城さん(大井第一小現PTA会長)が、山王小を訪ねて下さいました。

第20代校長 黒田 彦治 定年退職してから24年になります。現在84才です。退職校長の生存者最長老となりました。

昨年古希を迎え、芭蕉の一句「さま

ざまの事 思い出す 桜かな”の句意を実感します。書道と主婦業の両立はかりつつ晩年をすごしています。

第21代校長 小林 喜人 人工透析10年になりますが、割合に元気です。

野々山秋子 退職して20年があつという間に過ぎてしまいました。趣味の作品づくり、旅行などで、何となく忙しい日を過しております。

安尾 久子 品川区の教育委員をしております。

第22代校長 大野福三郎

ボーイスカウト、近隣のケアセンターへの奉仕、東京を歩く会、成瀬の自然を守る会、自治会等々のボランティアをやっております。

松元 久子 大一をはなれて15年目になりました。ここ10年間は一社会人として新聞をすみずみまで、テレビラジオのニュースをしっかりと見たりきいたりして話題をひろめています。又ひとりで歩けるうちにと旅行、温泉、観劇にあけてくれています。

佐藤 裕子 現在、臨床心理士として、教育相談、人生相談等をやっています。最近の自殺いじめ等々の事件が多発して憂慮しています。

佐藤麻里子 勤務先(大田区立入新井第四小学校)を退職し東京学芸大学大学院に在籍し、修士論文にとりくむ毎日を送っています。

關 惠美子

ホームカミングデー

毎年恒例の鹿嶋神社の大祭は10月の第3土曜、日曜です。



この日母校の校庭、教室を開放し、同窓生が三々五々集まれる楽しい再会の出来る場所を提供したいと考えています。その一隅には資料の展示コーナー等を設営したり、懐かしい友との語らいの場も作りたいので、その企画についてご意見、ご希望をお寄せ下さい。この企画にご協力頂ける方は同窓会事務局までご連絡下さい。

澄み渡った青空に響く祭囃子は、いくつになっても郷愁を誘い、幼かったあの頃の思い出を蘇らせてくれるでしょう。お子様、お孫さんを連れての参加も歓迎です。初めての試みなので納得頂ける企画は出来ないかもしれませんが、皆様のご協力を得て、徐々に充実させ、同窓会恒例のイベントとして定着させたいと考えて居ります。

開催日 平成20年10月19日(日)
午前11時～午後3時

会場 1階多目的室

集団疎開地を再訪しよう

「戦争体験を語ろう」の会での体験談、回顧録「ヒマラヤ杉」を読み、わき起こった学童疎開での、空腹、空襲、集団生活のつらい思い出。

今は何も残っていないかも知れないけれど、数十年前、戦争によって親と離れ、小学生でありながら負わされた運命の記憶と地は忘れることはできません。同じ体験をした第一小の方々と

いろいろと語り合いながら懐かしい場所を訪れようと、企画しました。ご参加の方には疎開に関する資料を差し上げます。

日時 平成20年5月31日(土)

午前10時 大井町駅中央口集合
行先 宝泉寺、大昌寺、欣浄寺、平山学寮、豊田学寮、宇津木寮、鮫陵源などです

お問い合わせ 昭和21年卒 白旗洋子 (旧姓 池田)

TEL〇三(三七七二) 六九五六

ご参加の方は5月15日迄にご連絡下さい。当日参加でも構いません。

『振替用紙の通信欄より』

○同級生だった上田澄子さんのご消息を長年知りたいなと思っております。
上田碩三氏のご令嬢です。

(S11年卒 横田 弘子)

○林部先生の独創的な教育法で教わった竹細工、ねんど細工、染め絵、編物など現在の私の趣味の生活にどれほど役立つていることか…ああいう教育法が望ましいです。

(S11年卒 磯邊 澄子)

○同窓会会報9号表紙中央の写真。昭和14年から15年の運動会。中央奥に「スベリ台」あり。これを左のバックにて昭和13年卒業河原校長先生・担任の原先生と記念クラス全員の写真を撮った。なつかしい思い出の旧校舎でした。(S13年卒 榎本 勉)

○運動会の写真なつかしかったです。一年生から六年生までリレーの選手

を続けられたなつかしい思い出です。

(S15年卒 井出真佐子)

○梅組担任であられた原先生のお便りを拝見。とても嬉しく存じました。ご健勝を願っております。18年5月の同期会後、大井第一小を訪ねました。卒業時とはすっかり様子が変わっていましたが、在校生が運動を巧みにしておられ頼もしいことでした。

(S15年卒 中原 紀子)

○会報9号の写真、左側中段の昭和11～12年金沢八景は私共S15年卒業の月組の写真です。

(S15年卒 代田 益穂)

○資料室に保管してあった5年生の松原さんと3年生の山崎さんの書が他の力作の中でも頭一つ抜き出ているのを覚えていきます。

(S47年卒 金井 泰久)

○私が5年生の頃(?)当時新任で2年生(?)を担当していた若月先生(現吾川区教育長)と今ではよく仕事で一緒になり、昔を懐かしんでおります。(S59年卒 大高美智子)

平成19年度の教職員異動

ありがとうございます。先生方、お元気で。

I 退職

教諭 霜鳥 福代先生
(大田区立東調布第三小学校嘱託)

教諭(家庭) 法京 麻由子先生

教諭 加藤 由希子先生

II 転出

校長 桑野 貴文先生
(品川区立鮫浜小学校へ)

主幹 関口 豊先生
(品川区立台場小学校へ)

教諭 熊谷 博光先生
(品川区立延山小学校へ)

教諭 小野寺千恵子先生
(大田区立馬込第二小学校へ)

教諭 橋本 幸江先生
(杉並区立浜田山小学校へ)

教諭 米澤 知子先生
(品川区立鮫浜小学校へ)

教諭 伝 七夫先生
(大田区立大森第一小学校へ)

養護教諭 兼元 富美子先生
(目黒区立東山小学校へ)

第六回 同窓会総会記録

平成一九年五月一九日(土)午後二時

於 大井第一小学校 図書室

出席者 十六名

- 一、会長挨拶 津田照通
- 二、来賓挨拶 伊佐副校長先生
- 三、議事

- ①事業報告
 - ②収支決算報告及び監査報告
 - ③事業計画
 - ④収支予算の承認
 - ⑤役員改選
 - ⑥その他
- 以上の議事について承認決定されました。

役員

- 会長 津田 照通(昭和14年卒)
- 副会長 松崎 滯子(昭和13年卒)
- 森 秀雄(昭和34年卒)

理事 一八名
 監事 飯田 昌雄 (昭和46年卒)
 財務 安田 央 (昭和32年卒)
 松本徳太郎 (昭和35年卒)

2006年度 収支計算書
 (2006年4月1日~2007年3月31日)

項目	金額	項目	金額
(収入の部)		[管理費]	
会費収入	1,885,000	会議費(管)	0
入会金収入	0	通信運搬費(管)	12,530
記念誌等販売収入	282,800	事務用品代	28,495
寄付金収入	0	振替手数料	101,590
雑収入	2,512	管理費雑費	580
①当期収入計	2,170,312	管理費計	143,195
(支出の部)		②当期支出計	1,288,680
[事業費]		当期収支差額(①-②)	881,632
会報出版費	249,060	前期繰越収支額	2,759,019
名簿管理費	39,866	次期繰越収支差額	3,640,651
会議費(事)	17,453		
旅費(事)	0		
通信運搬費(事)	757,106		
事業費雑費	82,000		
事業費計	1,145,485		

訂正

会報9号、5頁「タイコ人生」の文
 ①行目、「横浜国大」とありますが「慶
 応大ライトミュージックソサイティー」
 に訂正いたします。

お詫び

会報9号、学校新聞【大井第一】コ
 ピー代2000円を振込用紙の金額欄
 に2000円と誤記し多くの方々に大変
 なご迷惑をおかけし、その対応にお叱
 りをうけました。今後細心の注意を払
 い、このようなことのないようにいた
 します。申し訳ございませんでした。

物故者

在任期間

井上 モト先生 大正14~昭和18年
 祖母井 正先生 昭和54~59年
 佐藤 純子先生 昭和40~49年
 田中 歳一先生 昭和17~37年
 中村 玉子先生 昭和14~17年
 藤本百合子先生 昭和26~29年
 矢部 敏一先生 昭和19~22年
 山田 安夫先生 昭和42~44年
 吉田貞之助先生 昭和3~16年
 謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

投稿のお願い

「文字」にして残しておきたい思い
 出等、随時投稿をお待ちしています。
 10月30日までに、郵便、Eメールで、
 森または松本宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会
 報等の印刷代、通信費、事務費、母校
 に関わる慶弔費等の諸費用がかかりま
 す。平成18年の会費納入者は約一、〇
 〇〇名で約七、〇〇〇名に第九号会報
 を送ることができました。これからも
 安定した同窓会活動を続けていくため
 に、会費納入に皆様のご理解とご賛同
 を心よりお願い申し上げます。

一口一〇〇〇円
 同封の振込用紙をご利用頂き、五月

未までにお振り込み下さい。
 今年度より、郵便局のATMで送金
 の出来る払込票になりました。
 是非ご利用下さい。

名簿の資料提供にご協力を!!

(新住所・改姓名をお知らせください)
 会報を通じ、より大きく同窓の輪が
 広がることを願ひ、正確で充実した資
 料づくりを目指していますが、毎年、
 相当な数の宛先不明の会報が戻ってき
 ます。

名簿委員会では、会報をお送りする
 ために、「個人情報保護法」に則り、同
 窓会員の皆様の自宅住所・電話番号の
 個人データを厳重に管理し、保持して
 います。転勤、結婚、転居などにより
 変更となる場合には、事務局までお知
 らせください。

大井第一小学校ホームページ

とても充実した内容で、評判のホー
 ムページです。ぜひご覧下さい。

編集後記

寄稿してくださった皆様、素敵なお
 ツセージ本当にありがとうございます。
 懐かしいあの頃の思いを振り返る機会
 を頂いています。
 会報も10号を迎え、これからもいろ

いろな年代の方々に楽しんでいただけ
 る紙面にしたいと思ひますので、小学
 校時代の思い出、また感想など、何で
 も気軽に教えていただければとてもう
 れしく思います。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願い
 します。

森 秀雄
 〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井一―五三―九
 TEL〇三―三七七三―〇五〇六
 Eメール: hide@mori-shoukai.co.jp
 松本 徳太郎
 〒一四〇一〇〇〇四
 東京都品川区南品川五―一三一―一
 TEL〇三―三四七―〇二八六
 Eメール: mats745@cts.ne.jp
 〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井六―一―三二
 品川区立大井第一小学校
 TEL〇三―三七七二―一五二四〇
 http://www1.cts.ne.jp/oichi/

編集委員

昭和12年卒 山崎 浩子 (野原)
 昭和13年卒 松崎 滯子
 昭和21年卒 白旗 洋子 (池田)
 昭和30年卒 木村 親光
 昭和34年卒 森 秀雄
 昭和35年卒 東山 周子 (兼村)
 昭和35年卒 上野 良子
 昭和35年卒 松本徳太郎 (山崎)
 昭和42年卒 井上 幸子
 昭和49年卒 三戸 美子 (山口)